



角鹿小中学校(福井県敦賀市):小中一貫校  
2021年竣工  
RC造 3階建て  
13513㎡

『学び合い・育ち合いの場づくり』  
～敦賀市ならではの施設一体型小中一貫校の実現～

令和3年度に開校した角鹿小中学校は、敦賀北小学校・赤崎小学校及び成新小学校と角鹿中学校を統合した小中一貫校です。敦賀市では「敦賀市教育振興基本計画」の「基本方針(1)学校教育の充実」に基づき、中学校区での小中一貫教育を全市的な取組として進めています。設計者と行政だけでなく、地域住民や教職員、児童生徒といった利用者と一緒にワークショップを重ね、この地区の学校がどのようにあるべきか、小中一貫校の利点を生かした計画とはどのようなものかを検討し、「ソフト(教育)」と「ハード(建築)」の両面から考えた敦賀市ならではの「施設一体型の小中一貫校」としています。

○活動に合わせて選択できる集団学習スペース

空間の大小、テーブル/イスのあるなし、設置場所などの違いを持たせた多様な集団学習スペースを設けることで、学年全体や複数学年合同での学習活動など、活動に合わせてスペースを選択することができます。

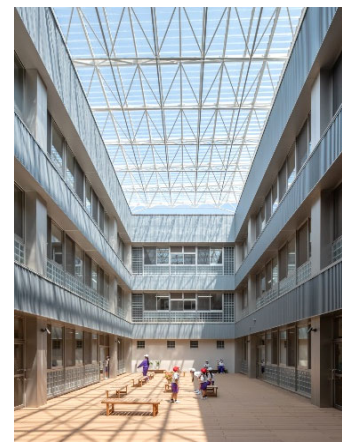
学びの拠点となるメディアセンターは動線の要となる1階中央に配置し、小中一体化により、本を介した児童生徒の日常的な交流や、小中相互の図書利用ができるメリットを活かします。学内のICT環境を充実させ、校内のどこからでも情報が収受できる環境をつくります。



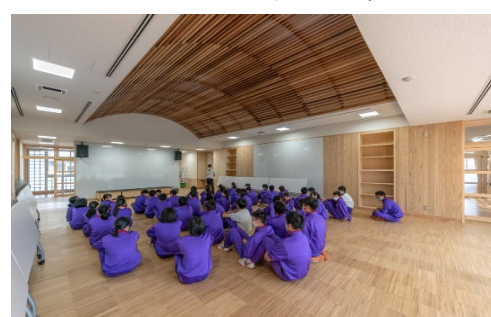
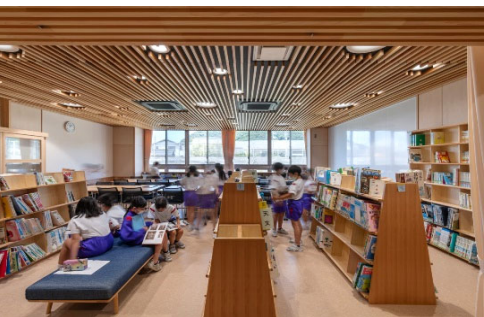
メディアセンター



ラーニングスペース



テラス



○児童生徒の成長段階に合わせた学習・生活スペース

学校生活の拠点となる普通教室廻りのスペースについて、以下のように設えの違いをつくり、9年間の長い学校生活に変化を与え、成長段階を演出します。

普通教室については、将来児童数が減少した際には、学年ごとのオープンスペースや、普通教室と連携した通級学級、更衣/教材スペースに転用するなど、学年ごとの学びを充実させます。

小学1~2年生 - 教室内でゆるやかに領域を分けて作業 -

- 大半の授業が教室で行われる総合教室型
- ワークスペースは教室内に内包し、ゆるやかに領域分け
- 隣室への音対策、管理のしやすさから建具は廊下側に設ける
- リビングルームのような学習・生活空間



小学3~6年生 - WSを含めた一体利用 -

- 特別教室を活用した専門性の高い教科教育が中心
- 学級間や学年全体での授業やグループ学習の機会が増えることへ対応
- ワークスペースは教室の拡張スペース
- 廊下とワークスペースはゆるやかに分け、共用部への発信スペースとする



中学1~3年生 - 多様な学習を同時に -

- 一斉形式の授業とともに小集団学習にも対応が必要
- 廊下と教室をしっかりと分ける
- ワークルームは壁で仕切った落ち着ける個室空間
- 個別練習やディベートなど、いくつものグループに分かれて活動できる



小学1~2年生教室

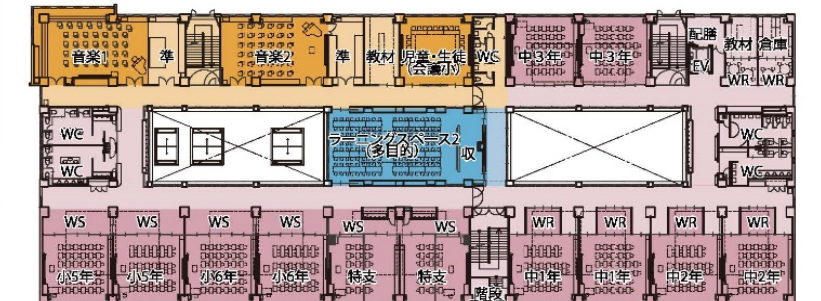


小学3~6年生教室

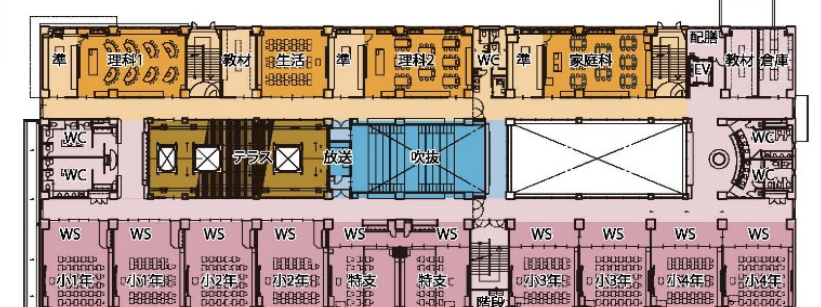


中学1~3年生教室

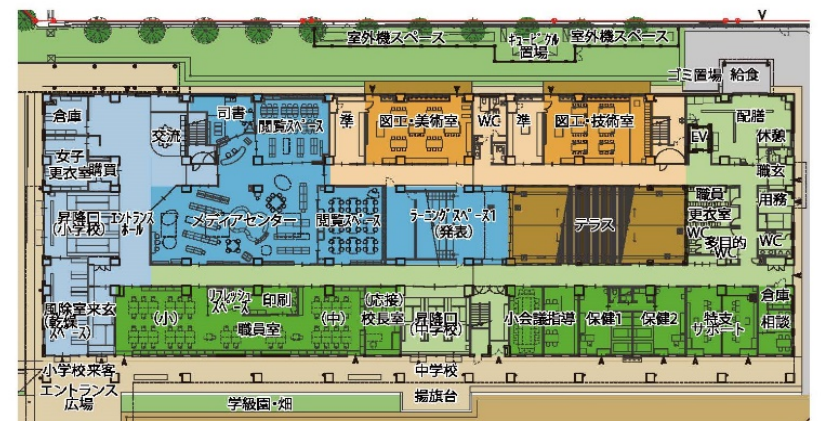
■ 平面計画



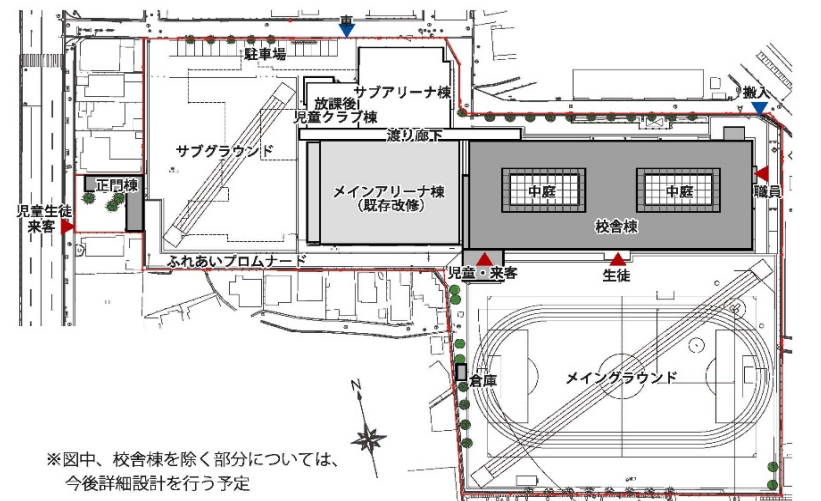
【3階平面図イメージ】



【2階平面図イメージ】



【1階平面図イメージ】



【配置計画イメージ】

※図中、校舎棟を除く部分については、今後詳細設計を行う予定

湯沢学園（新潟県湯沢町）：保幼小中一貫校  
 2015年竣工  
 RC造 4階建て  
 16,380㎡（学校：11,379㎡、こども園：3,377㎡）



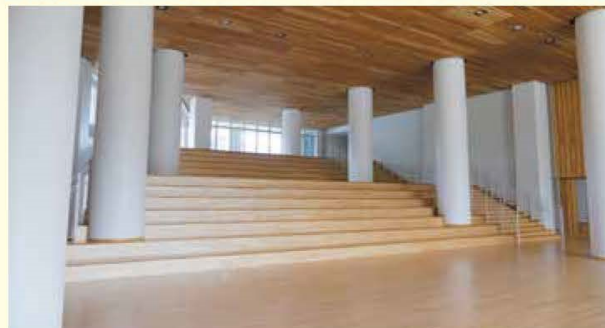
～保・小・中一貫教育～

湯沢認定こども園・湯沢町立湯沢小学校・湯沢町立湯沢中学校



交流・アリーナ棟

統合教育施設ならではのふれあいと交流の空間



【学校のシンボルIRORI広場】

学園の正面に位置し、玄関に入った子どもたちを迎え入れる木のぬくもりいっぱい  
 の温かい広場です。全ての子どもたちのふれあいの拠点です。全ての子ども  
 たちが毎日ここで様々なふれあいを実現します。

【いろりの間】

昔ながらのいろいろがある豊敷きの  
 部屋です。地域のお年寄りから昔  
 話を聞いたりみんなで語り合っ  
 たりする癒やしの空間です。



【図書室とオープンエリア】

本や学びとのふれあいを実現し、一人一  
 人の子どもが心を落ち着く居場所が随所  
 に工夫されています。



地域の交流拠点  
 となる一体型施設

【地域交流センター】

地域住民参加型の教育の実現を目指し、いつでも誰でも気軽に立ち寄  
 れる地域交流センターが全施設の  
 中央に位置しています。この地域交  
 流センターを核として地域住民と子  
 どもたちのふれあいが実現します。



【屋内プール】



【第一体育館】



地域の特性や環境を生かすエコスクール

【自然利用の空調システム】

立地を生かした自然通風、自然採光  
 を多く取り入れると共に、湯沢の豊か  
 な水を生かし、全ての教室に水路の  
 水温を活用した二酸化炭素の排出の  
 少ない冷暖房空調を導入しています。

【外の風景が良く見える書棚】



校舎棟

成長に合わせた小中一貫教育環境

【期ごとの一貫教育教室配置】  
 3階に1～4年生、4階に5～9年生  
 までの教室が配置され、学校生活  
 がそのまま小中一貫教育につな  
 がります。前期・中期の教室前  
 には学年ごとの共有オープンス  
 ペースがあります。



【教科教室】



【教科等の系統性のある教室配置】  
 文化系の教科教室、理系の教室群、芸  
 術系の教室群など、教科の特性に応じ  
 た教室配置で学びの充実を図ります。  
 8・9年生は、ホームルームと教科教室が  
 回廊型に配置され、効率のよい動線が  
 実現しています。



【家庭科室】



【保健室】



【校務センター】



認定こども園棟

【保育室】



【玄関ホール】



【クライミングウォール】



【トイレ】



【JumPla.net  
 総合子育て支援センター】



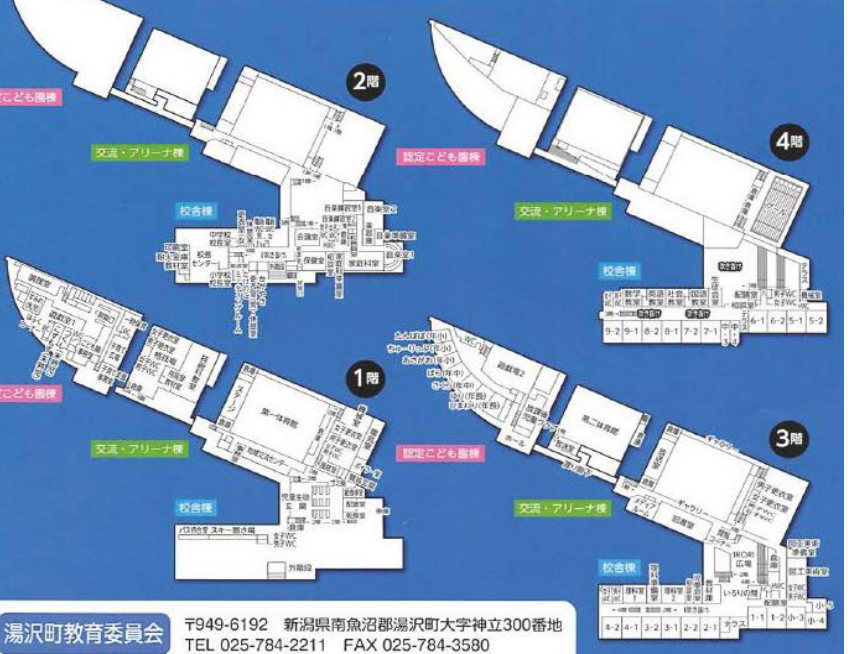
【放課後児童クラブ】



施設案内

【工事概要】

施設名 湯沢町総合文教施設(湯沢学園)  
 所在地 新潟県湯沢町湯沢大字神立1580番地  
 構造 RC造コンクリート造(一部SRC造)  
 敷地面積 52,378.67㎡  
 総棟面積 16,380.20㎡  
 学校棟 11,379.42㎡(平成26年4月供用開始)  
 認定こども園棟 3,377.80㎡(平成27年11月竣工)  
 【設計監理】 株式会社 久米設計  
 【建築施工】 平成24年9月28日～平成27年11月30日  
 奥村・森下 文明屋特定共同企業体  
 ●株式会社 奥村組  
 ●株式会社 森下組  
 ●株式会社 文明屋  
 【機械設備施工】 平成24年9月28日～平成27年11月30日  
 ダイケンついでい専次特定共同企業体  
 ●ダイケン 株式会社  
 ●株式会社 ついでい専次  
 ●株式会社 野水建設  
 【電気設備】 平成24年10月5日～平成27年11月30日  
 村尾・岸本特定共同企業体  
 ●株式会社 村尾電気  
 ●株式会社 岸本電気

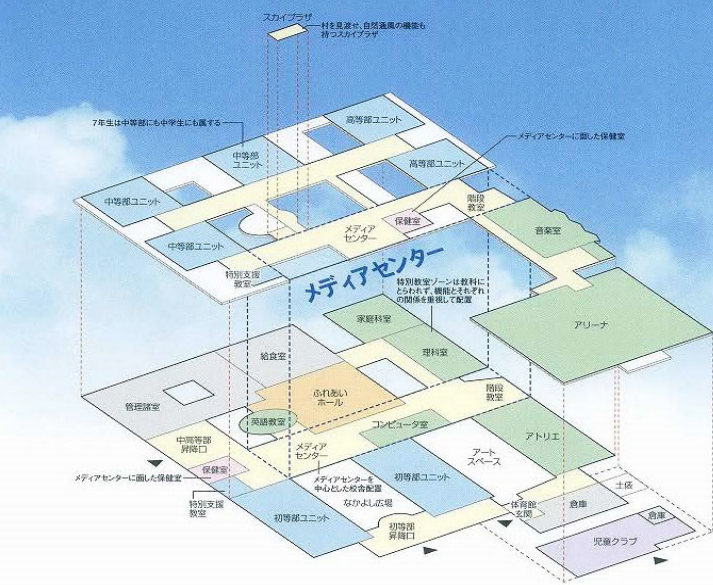




飛鳥学園(愛知県飛鳥村):小中一貫校  
2010年竣工  
RC造 3階建て  
13,100㎡



飛鳥学園施設配置の考え方



◆地域の知恵を絞ってつくり上げた学び舎

この学び舎は、小中一貫教育を実践するのに最もふさわしい場とするため、教育委員、区長、PTA代表、保護者代表、議会代表、教師代表、学識経験者、行政及び設計者が参加したワークショップというかたちで、知恵を出し合いつくり上げてまいりました。

◆メディアセンターを中心とした構成

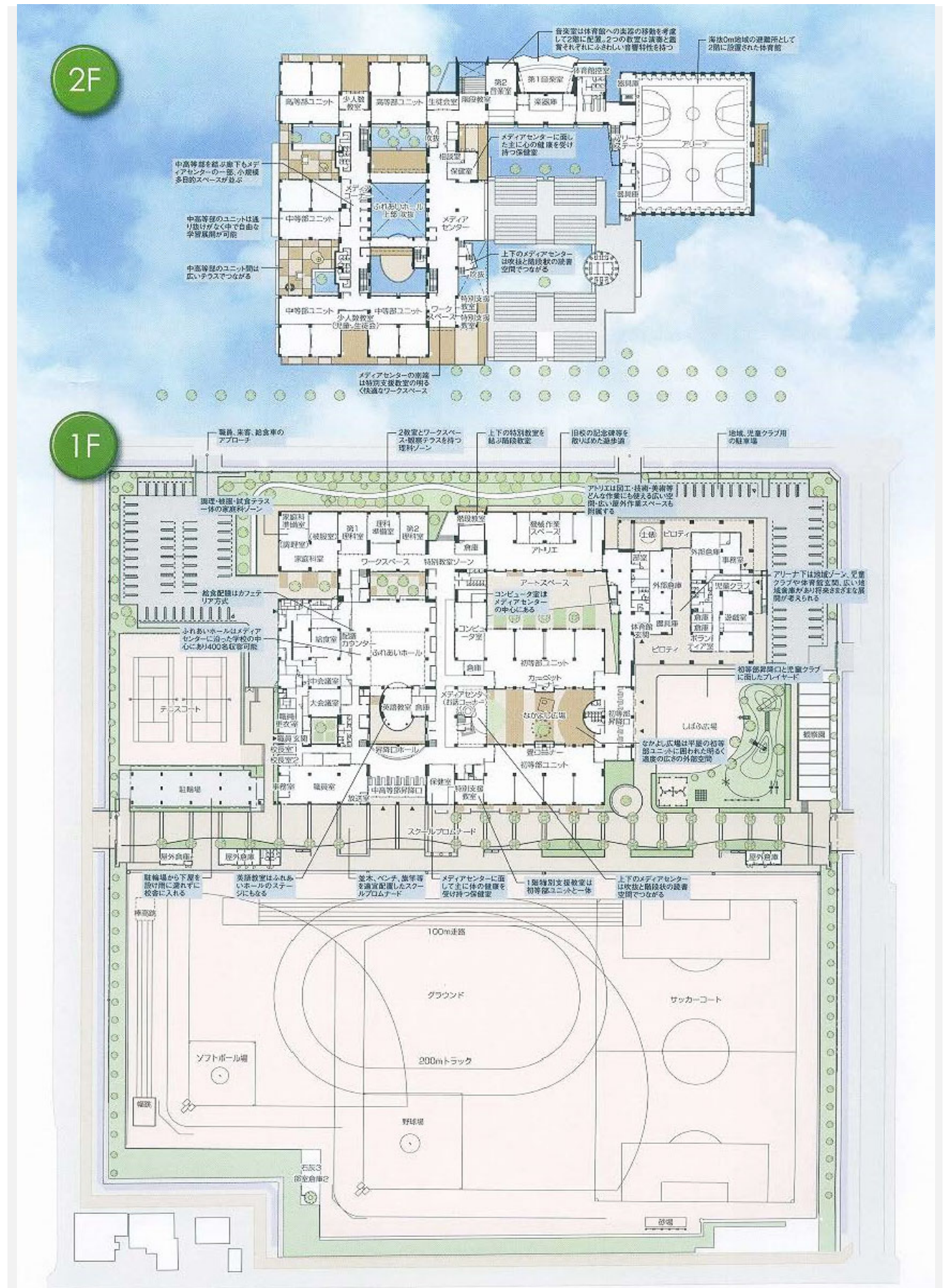
子どもたちが思いついた時いつでも自由に資料に触れる事ができるよう校舎中央1・2階に配置した「メディアセンター」を中心に、さまざまな学習形態に対応できる「学年ユニット」や機能重視で構成した「特別教室ゾーン」全校児童生徒が一同に会する事ができる「ふれあいホール」を配置した、自ら学ぼうとする力や異学年交流、ふるさとを愛する気持ちの育成に最適な施設構成となっています。

◆成長段階にあわせて構成した学年ユニット

「学年ユニット」は4-3-2の学年構成にあわせて構成となっています。「初等部ユニット」は1階に配置し、2学年ごとにまとめ、メディアセンターと共になかよし広場を囲う形で回遊動線を形成しています。中高等部ユニットは2階に学年ごとに配置し、それらを結ぶ通路に沿って多目的に使えるメディアコーナーや少人数教室を配置しています。また、各ユニットの間は広い屋上テラスでつながれ、異学年交流の場となっています。

◆教科の枠を超えて構成した特別教室ゾーン

「特別教室」は校舎北側1・2階にまとめて設け、メディアセンターと交差する位置には発表や集会、イベントなど多彩な利用ができる階段教室を配置しています。



**北房小学校・こども園(岡山県真庭市):保幼小一貫校**  
 2018年竣工  
 木造 2階建て  
 小学校:4,656㎡ こども園1,536㎡



**設計主旨**

真庭市は中国山地の中央に位置する南北約50kmの広がりを見せる岡山県最大の市であり、豊富な森林資源の恵みにより全国でも有数のパイオマス産地として知られている。敷地のある北房地域は市の南部に位置し、この地でイメージしたのは、地域の子どもたちが集う「大きな家」である。  
 本計画は、北房地域の4小学校、3幼稚園、2保育園を再編した小学校と認定こども園を同一敷地内に合築する整備事業である。真庭市では、すでに地域産材やCLTパネルを

用いた建築の取組みを積極的に行っており、本計画においても、真庭産材をふんだんに活用した「木に包まれたさまざまな交流の場をもつ、地域につながる学び舎」をめざした。小学校・こども園・放課後児童クラブの建物は中央の広場を取り囲むように配置し、さまざまな交流や連携が自然と生まれる構成とすることで、こども園から小学校へとつながる、0歳から12歳までの「育ちと学びの連続性」を意識した。  
 小学校は大断面集成材によるラーメン架構とし、教室間の耐力壁や体育館の屋根にCLT

パネルを部分的に活用、こども園ではCLTパネル工法と在来組工法を組み合わせたハイブリット構造により、床・壁・屋根にCLTを効果的に活用した。また、美観・手触り・耐摩耗性に配慮して、外層にひのきを利用した新しいCLTパネルを開発し、木材利用の促進にも繋げている。木造化だけでなく、内装・建具・家具でも積極的に真庭産材を採用することで、地元への思いや誇りを育てる生きた教材となり、子どもたちや地域の人々に愛される学び舎として成長することを望むものである。(松田 一、小島茂也、森下春香/東畑建築事務所)



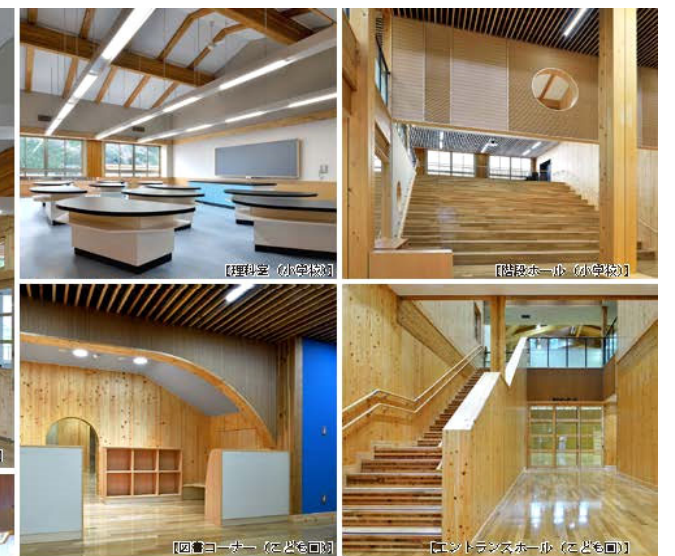
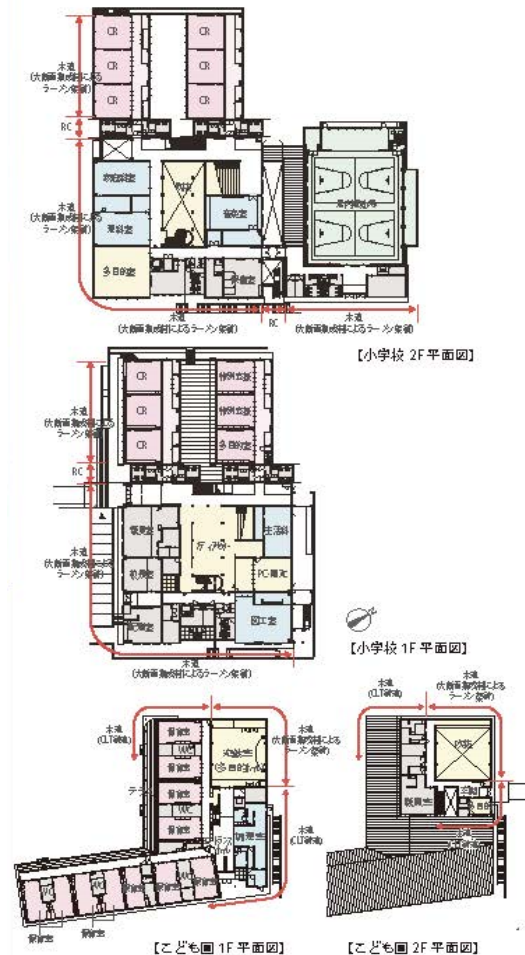
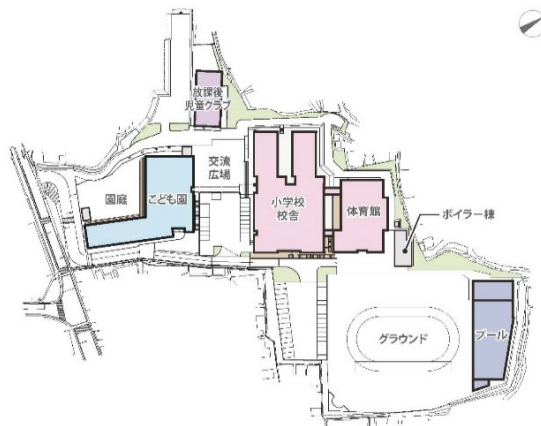
交流広場に向けた校舎



園庭を包み込む屋根付テラスと園舎



メディアセンター



**2. こども達を包み込む空間づくり**

- ・真庭産材に包まれたぬくもりのある校舎で過ごし、木に親しむという行為が自然に行えるような『木に包まれた明るい空間』を創造しました。
- ・勾配屋根の明るい保育室・普通教室は木で覆われた空間となり、あたたかく落ち着いた教育環境をこども達に与えます。

